

千葉市議会議員（中央区選出）

現場主義

三井みわこ 議会報告



令和6年 第4回定例会 教育未来委員会 委員長報告



千葉市少年自然の家に係る指定管理者の指定に関する議案に対し、4委員より、現指定管理者の管理運営を高く評価するとともに、同事業者による次期指定期間においても、利用者から寄せられる要望等に基づきさらなる改善に努め、より幅広い子供たちに質の高い体験機会を提供できるよう取り組まれたいとの意見が述べられ、採決の結果、全会一致をもって可決となった。

千葉市千城台西保育所新築工事に係る工事請負契約について、委員より、公立保育所の民間移管が進んでいる中、公立のまま建て替えることは意義のあるものであるという意見、また、遅滞なく工事が完了するよう進行管理に留意されたいとの意見が述べられ、採決の結果、全会一致をもって可決となった。

第4回定例会 令和6年 第4回定例会 一般質問

防犯について

令和6年に入ってから、全国的にSNSを使った強盗事件が多発している。

防犯についての意識を高めることは、多くの犯罪被害を防止することに繋がり、そのため市民一人ひとりの防犯意識の向上を図る必要がある。

地域における防犯力の向上について、現在、各地域で防犯パトロール隊による積極的な活動が行われているが、高齢化の進展で活動の担い手が不足し、地域の防犯力の維持に深刻な影響が出ている。本市

においては、安全対策・犯罪被害への支援、防犯カメラや防犯街灯等の整備促進により、安全で安心して生活できる環境づくりを進めている。

質問 防犯対策補助金の昨年と現在の申請状況は？

町内自治会等が防犯カメラを設置する際、経費の一部を補助しているが、昨年度は26団体、今年度は28団体から設置の申請があった。また、防犯パトロール活動を実施する団体に対し、必要な物品を配付する等、防犯パトロール活

質問 参加した方は、どのように受け止めていたか？

多くの方から「とても楽しかった」との声をいただいた。例えば、「かえっこバザール」では「花見川団地の取組を知るきっかけになった」や「運営に参加したい」などの感想をいただいた。

質問 千葉国際芸術祭2025の今後の展開は？

千葉県こども病院や動物公園・美術館など、特性を活かしたアートプロジェクトの実施を予定し、また、地域やコミュニティと関係性を築きながら作品制作等を行うなど、海外と本市ゆかりの若手アーティストを公募している。

要意見 文化施設の多様な活用や他分野との連携を図りながら、ちばの文化芸術と多彩で豊富な資源にあふれた魅力ある文化芸術のイベントなどを展開していくことで、文化芸術の面から、子供や若者が持つ大きな可能性を育む機会を創出し、子育て世代の心のゆとりを生み出していくことが大変重要であるとする。芸術祭を契機として、更に様々なジャンルの文化芸術活動が活性化されるよう間口を広げていくほか、オール千葉市で取り組めるよう、「芸術サポーター」を創設していくことも要望する。

答弁 千葉国際芸術祭は、市民に身近な場所である「アーツフィールド」で、アーティストと市民がともに表現活動や作品制作などに取り組む多様な「アートプロジェクト」を展開する、「市民参加型」の芸術祭です。

質問 芸術祭の会場となるアーツフィールドは、どのように選ばれたのか？

答弁 アーティストの視点から、地域の歴史・文化的背景や現場の状況などを丁寧にリサーチした結果、プレ会期では、中央区市場町や花見川周辺、市内小学校アフタースクールなど、8つのアーツフィールドを選定した

質問 令和6年度のアートプロジェクトの取り組み状況は？

答弁 10月26日に、本芸術祭の活動拠点である市場町の「うなぎの安田」にて、「地域リーダーズ」を中心に、対話型ワークショップイベント「ラウンドテーブル02」を開催した。不要なおもちゃを持ち寄ってポイントと交換する「かえっこバザール」を10月5日にセンシティタワーとそごう千葉店周辺の公開空地で、11月9日に花見川団地商店街で開催した。

要意見 多くのイベントが、文化芸術施策を通じて子供たちの可能性を広げると思う。

三井みわこ プロフィール

- 1971年：生まれ 千葉市中央区登戸在住
- 2002年：NPO法人ハートケアゆーあい（障がい者の施設）設立
- 2003年：聖徳大学大学院 児童学研究科 修士課程修了
- 2006年：NPO法人政策塾「一新塾」（熊谷知事と同期）卒業
千葉県教育戦略ビジョン策定作業部委員
- 2007年：社会福祉法人「白雪会」の理事に就任、軽費老人ホーム「ほんだくらぶ」の運営に携わる
- 2008年：ちばCO2C02ダイエツ推進 / 県議会議員
- 2010年：千葉市「新市民計画策定のための市民ワークショップ」委員
- 2011年：千葉市議会議員選挙初当選
- 2013年：都市建設委員会副委員長
- 2015年：千葉市議会議員選挙2期目当選
- 2018年：千葉市議会総務委員会 副委員長
- 2023年：千葉市議会議員選挙3期目当選
千葉市議会総務委員会 副委員長
- 2024年：教育未来委員長

ご意見・ご要望がありましたら、右記の連絡先までよろしくお願ひします。

E-mail : mm@mitsui-miwako.com

X(旧 Twitter)ID : 三井美和香

発行 : 三井 美和香

TEL & FAX : 043-216-5432

〒260-0033 千葉市中央区春日

1丁目6-11-106



三井みわこ



で検索！

<http://www.mitsui-miwako.com>



動を支援しているが、昨年度は65団体、今年度は106団体から物品の配布についての申請があった。

質問 愛知県の岩倉市では、防犯対策用品の購入補助事業がありますが、犯罪を未然に防止するため、住居や自動車などに設置する防犯対策物品の購入費の一部を補助している。本市は、どのように認識しているか？

答弁 個人の防犯対策用品購入に対する補助は行っていないが、町内自治会等に対する防犯カメラ設置補助や防犯パトロール隊への支援、防犯アドバイザー派遣など、幅広い防犯施策を実施することにより、犯罪抑止のために重要となる、地域における防犯意識の向上を図っている。

質問 SNSを使った闇バイトの存在で、高額報酬につられ、罪の意識が薄いまま加担する若者が後を絶たないことに、ネット社会に潜む危険が改めて認識されている。本市の当該事案の発生状況は、どのように認知されているか？

答弁 「闇バイト」に関連する事件も含め、犯罪発生状況については、千葉県警察からの情報に基づき把握している。市内又は隣接市で事件が発生し、加害者が凶器を持って逃亡中など、二次被害が生じる恐れがある場合については、ちばし安全・安心メールやSNSなどを通じて注意喚起を行っている。

要意見 社会問題化する「闇バイト」に若者が手を出すのを防ごうと、高校生を対象に闇バイトの巧妙な勧誘や手口などを紹介する講義を学校で開催し、注意喚起を図るといったニュースを見た。闇バイトでは、自身や家族の住所などを登録させられることが多く、抜け出そうとしても「親に危害を加える」などと犯罪グループから脅される事例も相次いで

いる。講義を受けた生徒たちは、SNSの広告から闇バイトに手を出してしまった18歳の少年の事例や、闇バイトに関するクイズなどを通して、その危険性について理解を深めた。このような取り組みは、自らの安全確保はもとより、友人や家族、地域社会の人々の安全にも貢献する大切さについての理解を深めると共に、地域の安全に関する活動にも積極的に参加する機会になると思う。

多文化共生について

本市は、令和5年3月に「千葉市多文化共生のまちづくり推進指針」の見直しとともに、具体的な行動計画として「千葉市多文化共生推進アクションプラン」を策定した。「千葉市多文化共生のまちづくり推進指針」の基本理念は、「全ての市民が、安全・安心に暮らし、国籍や言語・文化などの違いを認め、互いに分かり合い、支え合い、多様性をまちの力にする多文化共生社会を実現することで、国際都市としてのさらなる発展を目指す」とされている。本市の外国人市民数は、本年10月末の時点で39,009人、総人口に占める割合は3.96%となっている。



質問 外国人市民に対する生活相談の整備状況や、情報発信の取り組みは？

答弁 本市では、公益財団法人千葉市国際交流協会に窓口設置しており、相談対応は、専門員である多文化共生コンシェルジュや外国人生活相談員を配置して多言語で対応、また、千葉県弁護士会の協力による無料法律相談を実施している。情報の発信は、千葉市国際交流協会の公式LINEアカウントを開設し、外国人市民からの各種相談対応や生活に必要な情報発信の強化に努めている。

質問 外国人市民と日本人市民の交流機会は充実しているか？また、外国人が地域社会へ参画や地域の担い手として活躍される取り組みは？

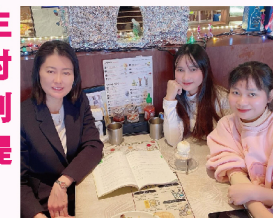
答弁 市内の国際交流・国際協力団体が「ちば市国際ふれあいフェスティバル」、昨年度からは「国際交流ハロウィンパーティー」を本開催している。また、外国人と地域社会とが抱える生活上の困りごとに対し、「コミュニティ通訳・翻訳サポーター制度」に登録している外国人市民が課題解決を支援する取り組みを行っている。

質問 現場からは日本語ボランティアの高齢化や人材不足、安定的な運営体制の確保等の課題が挙げられている。外国人市民に対する切れ目のない日本語学習の支援体制を構築すべきと考えるが、日本語学習支援体制については？

答弁 千葉市国際交流協会にて、1対1の日本語指導や各種日本語クラスを実施している。令和6年10月からオンデマンドによる講座を開始している。人材不足の課題に対応するため、「日本語交流つなぎて講座」を開催、日本語学習支援者としての役割にとどまらず、外国人市民と地域社会をつなぐ役割を担う人材の育成に取り組んでいる。

要意見 「千葉市多文化共生のまちづくり推進指針」の基本理念に「全ての市民が安全・安心に暮らす」と定められているが、首都直下地震等の発生が想定される中で、日本の災害に馴染みの薄い外国人に平時から防災に関心を高めてもらう取り組みが求められる。

質問 大規模災害発生時の外国人に対する支援体制や、防災訓練、情報提供については？



答弁 多言語で防災メールを配信するサービスを実施しており、現在11か国語で対応、更に「外国人市民のための防災ガイドブック」を多言語で発行し、区役所や日本語学校等で配布している。毎年、九都県市合同防災訓練の機会を捉え、外国人市民の参加者を募集し、避難誘導や起震車等の体験、防災教室を実施している。

要意見 外国人留学生交流員制度において、今年度から地域社会の行事に積極的に参加していると聞いている。町内自治会の防災訓練に参加した事例などをモデルケースとし、市内全体に波及することを期待している。浜松市では外国人材の活躍推進に積極的に取り組んでいる事業所を認定する『浜松市外国人材活躍宣言事業所認定制度』があり、市の発注業務での優遇措置や事業所内での多文化共生の取り組みをより進めるためのアドバイザー派遣を受けられ、また、外国人材向けの日本語教育プログラムが活用可能となっている。今後も、「ことば」の支援、「くらし」の支援、「災害時」の支援を継続するだけでなく、外国人市民が地域社会の担い手として活躍し、その能力を最大限に発揮できる社会づくりを期待している。

文化芸術振興について

令和6年10月21日に開かれた千葉国際芸術祭2025に関する記者発表では、市民参加型芸術祭として、文化施設にこだわらず、従来、文化芸術活動の場として使われてこなかった場所でも、今後は積極的に展開されることが公表されました。

来年度、予定している千葉国際芸術祭2025の取り組み状況について質問する。

質問 市民参加型芸術祭とするねらいは？